

花草木

【ヨウシュヤマゴボウ】

ヨウシュヤマゴボウ（洋種山牛蒡、学名: *Phytolacca americana*）は、北アメリカ原産の多年草で、日本では明治時代初期に渡来し、現在では全国に広く分布する帰化植物です。高さは1～2mに成長し、6月から9月に白っぽい淡い紅色の小花を咲かせ、秋には見た目が美しいブドウのような黒紫色の果実が熟するのが印象的です。

しかし、全草に毒を持つ有毒植物ですので、誤食しないように気を付けましょう。特に果実の種子は危険です。市販されている「山でぼうの漬物」は、キク科のモリアザミやゴボウの根であり、ヨウシュヤマゴボウとはまったく別物です。絶対に間違えて食べないように注意しましょう。また、果実を潰すと赤紫色の果汁が出るため、「草木染め」の染料として布や糸を染めるために使われることがあります。

花言葉は、「元気」「野生」「内縁の妻」などです。



大阪市内の道端で咲いていた
ヨウシュヤマゴボウの果実

我が署のスタッフ 和歌山森林管理署

正司 康智（しょうじ やすのり）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループの係員として災害箇所の復旧などの業務を行っています。採用2年目となった今年度は、初めて治山工事の監督を任せられ、治山ダムの測量設計から、工事の発注・監督・検査に至るまで、勉強しながらではありますが実行することができました。自分が想定していたよりも事務に時間がかかることも多く、前倒しで仕事を進めていく大切さを日々痛感しています。

【職場の雰囲気は？】

明るい職員が多く、毎日のように仕事以外でも声をかけてもらえます。庁舎のそばに官舎が集まっていることから、みんなで集まって飲むこともあります。職員の中には、実家が農家、狩猟免許を持っている方などバラエティーに富んでおり、差し入れをいただくこともあり、アットホームでにぎやかな雰囲気の職場です。

【林野庁の魅力は？】

現場での仕事と室内での事務作業が両方バランスよくある点です。大体は週に1回から2回ほど現場に行くことが多いですが、多いときは一週間続けて現場に行くこともあります。



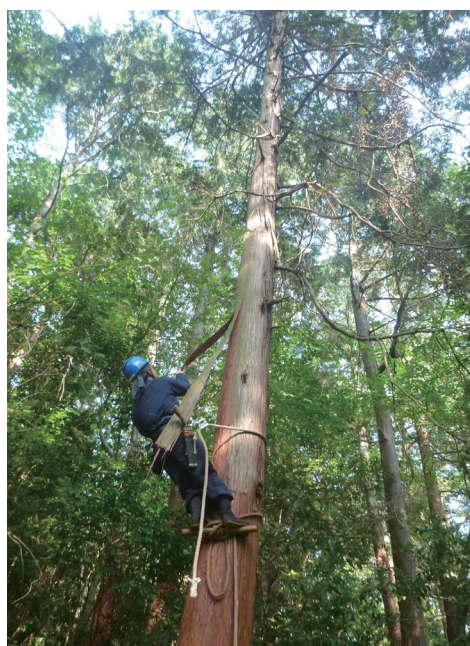
治山工事における監督業務（材料確認）の様子

森林事務所等紹介

郡山森林事務所 (奈良森林管理事務所) 森林官補 碓谷 太成 (いかりや たいせい)

郡山森林事務所では、約 528ha の国有林を管理しています。古事記や万葉集など数多くの歌が詠まれる大和^{やまと}三山^{さんざん}、歴史的建造物の修復等に必要な木材を生産する「古事の森」のある地獄谷^{じごくだに}国有林や野山^{のやま}国有林など、日本の歴史や文化と関わりの深い国有林が数多く存在しています。

今年度は、野山国有林で 12 年ぶりの檜皮^{ひわだ}採取が行われました。檜皮とは、文字通り檜^{ひのき}の樹皮のことで、檜皮葺^{ひわだぶき}として、日本を代表する建物、奈良の法隆寺や京都の清水寺といった国の重要文化財の檜皮葺きの屋根の修復に用いられています。



檜皮採取の様子

今回は 2 週間にわたって 4 人の原皮師^{もとかわし}※¹ が檜皮採取を行いました。僅かな道具と己の身体のみで檜に登り、皮を剥いていく様はまさに職人技です。

期間中には大学生の就業体験も行われたので、奈良の特徴ある国有林の紹介として見学してもらい、奈良森林管理事務所内の職員も現地で勉強会を実施しました。

檜皮採取とは皮を剥いておしまいではありません。剥いた皮を束にし、大切包丁^{おおぎり}で切断、結束するまでが原皮師による仕事です。ここで採取された檜皮はその後、屋根に使えるよう整形され実際の檜皮葺に利用されます。

今回のような檜皮採取は国有林でも限られた場所で約 10 年に一回しか実施されないことから、とても貴重な経験となりました。



大切包丁で束ねた檜皮を切断する様子

同時に、国有林野が日本の歴史や文化の場として利用され、技術の継承に貢献していることは、国有林野が果たすべき役割の一つでもあり、木材生産や森林整備のみならず、文化の継承地としての国有林野の価値を見て取れました。



地獄谷石窟仏^{せきくつぶつ}※² (地獄谷国有林)

このように、郡山森林事務所では、日本の歴史や文化に根差した国有林が多くあります。それらの管理を通して、自分もその継承に携われることに誇りとやりがいを感じながら働いています。引き続き森林官として、林野巡視等を着実にを行い、健全な森林環境を整備し、奈良の歴史・文化の継承に貢献できるよう努めてまいります。

※¹ 原皮師：檜皮を採取する技術者。

※² 石窟仏：岩山や岩場に彫られた仏像。

シリーズ『国有林 最前線！』

国立公園『三瓶山』への貢献

島根森林管理署

三瓶山は、島根県のほぼ中央部、大田市と飯南町にまたがる活火山です（標高：男三瓶山^{おさんべさん} 1,126m）。大山隠岐国立公園の一部で、日本二百名山に選ばれています。

今回は、島根森林管理署における三瓶山^{さんべさん}国有林（707ha）の地元等への貢献について紹介します。

○登山道の安全確認

平成 30 年 4 月 9 日に発生した島根県西部地震により、三瓶山国有林の登山道において複数の亀裂が確認されました。

三瓶山は登山者が多いため、亀裂の拡大や登山道に崩壊等危険な個所が発生していないか、毎年山開き前の 4 月に環境省、島根県、大田市及び地元警察署と連携し、登山道を踏査しながら安全確認の調査を行っています。

現在は、亀裂について拡大は認められず、危険個所については、ロープや注意看板の設置を行っています。



クラック調査

○山頂トイレ

今年 7 月に、三瓶山の男三瓶山に山頂トイレが整備されました。三瓶山は子どもを含む幅広い世代が登山で訪れますが、トイレの整備は長年の課題でした。

トイレは中国四国地方環境事務所に貸付（225㎡）した箇所に、環境事務所や大田市などが連携し建設されたものです。トイレは環境に配慮し、汚物は浄化槽で微生物を使って分解し、汚水も浄化・循環させる仕組みで、処理能力は一日当たり延べ 270 人。事業費は 1 億 6 千万円でした。これからも三瓶山を安心、快適に利用していただくよう協力していきます。



三瓶トイレ

○三瓶山西の原火入れ

三瓶山周辺では、地元の方々の努力により、草原環境が保全されています。中でも西の原では草原性の希少な昆虫や植物の生息環境を維持するため、大田市を中心に環境省、島根県などが協力して毎年 3 月末に火入れを行っています。豊かな生態系とは森林だけに存在するものではないことも再認識できる行事であり、島根署からも毎年職員が火入れに参加しています。火入れ後、数週間で新緑のきれいな草原に生まれ変わります。



火入れ